

新年のご挨拶

京都府国民健康保険団体連合会
理事長 多々見 良三



新年明けましておめでとうございます。

皆様方には平成31年の新春を健やかに迎えの心からお慶び申し上げます。

日頃は国保事業の健全な運営にご尽力をいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、本会の事業運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、国保制度は、国民皆保険制度の中核として、地域における医療の確保と住民の健康保持増進に大きく寄与してきました。しかしながら、中高年齢者が多く加入し、医療費が増加する一方、被保険者の所得水準が低く、保険料（税）の負担率が高いという構造的な問題を抱えており、大変厳しい財政運営を強いられています。

こうした状況を踏まえ、国からの財政支援の拡充により国保財政の基盤強化を図るとともに、国保運営のあり方を見直し、京都府が財政運営の責任主体となり、市町村とともに中心的な役割を担うことを柱とする新たな国保制度が昨年4月に施行され、大きな混乱もなくスタートを切ることができたのは、国保関係者の多大なるご尽力の賜物と感謝しております。

国は、高齢者人口がピークを迎える2040年頃を見据え、疾病・介護予防を強化して健康寿命を延ばすことで働ける高齢者を確保し、医療費や介護費の適正化につなげるとともに、保険者の予防措置へのインセンティブの大幅な強化を検討していくこととしています。

本会といたしましても、保険者の共同体として保険者ニーズに応えるため、ICTを活用した業務の効率化、審査体制の充実強化、保険者努力支援制度の評価指標に基づく保健事業や医療費の適正化対策への更なる支援に努めてまいります。

今後とも、本会事業運営への一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとりまして飛躍の一年となりますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

平成31年 元旦